

2種混合（ジフテリア・破傷風）予防接種を受ける方へ

1 対象者・接種回数

11歳以上13歳未満 1回

（標準的な接種年齢は11歳以上12歳未満）

※3種混合の2期として、2種混合で追加接種を1回行います。

※生後3月から生後90月に至るまでの間に、3種混合を規定の回数で終了していない方は、保健センターまでご相談ください。

＜規定の回数（対象者：生後3月～90月）＞

「1期初回」—20日から56日までの間隔で3回

「1期追加」—標準的な接種期間は1期初回接種（3回）終了後12月から18月までの間隔をおいて1回

2 接種場所

指定医療機関をご覧ください。

3 一般的注意

（1）事前に予約が必要です。（詳しくは各医療機関にお問い合わせください。）

予約時に伝えること

予防接種の種類・・・2種混合（ジフテリア・破傷風）予防接種

子どもの氏名、生年月日、保護者名、住所、電話番号

最近接種した予防接種名と接種年月日（接種間隔の確認のために必要です。）

（2）予約日に、都合により接種できない場合や体調が悪い場合は、予約先に連絡し予約日を変更してください。

（3）予診票は事前に記入してください。

・太枠内を、**黒のボールペン**で記入してください。

・診察前体温は、接種前に医療機関で測定した体温を記入します。

・予診票は切り取らずに、医療機関へ提出してください。

（4）接種当日は母子健康手帳、予診票、健康保険証、子ども医療費受給者証を持参してください。

（5）接種は健康状態の良好なときに受けてください。

（6）右側の「2種混合（ジフテリア・破傷風）予防接種について」をよく読み、必要性や副反応についてよくご理解のうえ、接種を受けてください。

（7）ガンマグロブリン製剤の注射を受けたことがあるお子さんについての接種時期については、かかりつけ医と相談してください。

（8）住民登録のない方は、事前に保健センターへご相談ください。

4 予防接種を受けることができないお子さん

（1）明らかに発熱のあるお子さん（医療機関で37.5℃以上）

（2）重篤な急性疾患にかかっていることが明らかなお子さん

（3）接種しようとする接種液の成分によって、「アナフィラキシー※」を呈したことが明らかなお子さん ※アナフィラキシーとは接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応

（4）その他、医師が接種不相当と判断した場合

※感染性の疾患（麻しん・風しん・流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）・咽頭結膜熱（プール熱）・伝染性紅斑（リンゴ病）等）に罹患・接触した場合は、一定期間接種できないことがありますので、接種医にご相談ください。

2種混合（ジフテリア・破傷風）予防接種について

★ジフテリアとは

ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。

1981年に現在使われているジフテリア・百日せき・破傷風混合ワクチン（DPT）が導入され、現在では患者発生数は年間0～1名程度です。しかし、ジフテリアは感染しても10%程度の人に症状が出るだけで、残りの人は症状がでない保菌者となり、その人を通じて感染することもあります。

感染は主にのどですが、鼻にも感染します。症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などで、偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することもあります。発病2～3週間後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすことがあるため注意が必要です。

● 飛沫感染（ひまつかんせん）

ウイルスや細菌が、せきやくしゃみなどで細かい唾液や気道分泌物につつまれて空気中へ飛び出し、約1mの範囲で人に感染させることです。

★破傷風とは

破傷風菌はヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中にいる菌が、傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。菌が体の中で増えると、菌の出す毒素のために、筋肉のけいれんを起こします。最初は口が開かなくなるなどの症状が気付かれ、やがて全身のけいれんを起こすようになり、治療が遅れると死に至ることもある病気です。患者の半数は本人や周りの人では気が付かない程度の軽い刺し傷が原因です。土中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。またお母さんが抵抗力（免疫）をもっていれば、出産時に新生児が破傷風にかかるのを防ぐことができます。

★2種混合予防接種の副反応

注射部位の発赤・腫脹（はれ）、硬結（しこり）などの局所反応が主で、7日目までに約31%認められます。なお、硬結（しこり）は少しずつ小さくなりますが、数か月残ることがあります。特に過敏なお子さんで肘をこえて上腕全体がはれることがまれにあります。

通常高熱は出ませんが、接種後24時間以内に37.5℃以上になったおさんは0.5%未満です。重い副反応はなくても、機嫌が悪くなったり、はれが目立つ時などは医師に相談してください。

接種後の注意

- 1 接種後1週間は、副反応の出現に注意しましょう。
- 2 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- 3 重い健康被害が生じた場合、厚生労働大臣が予防接種によるものと認定したときは、予防接種健康被害救済制度の給付に対象となります。

————— お問い合わせは各市町村の保健センターへ —————

津島・海部地区4市3か町村

津島市、愛西市、弥富市、あま市、大治町、蟹江町、飛島村